

いつもの暮らしに、がん検診を

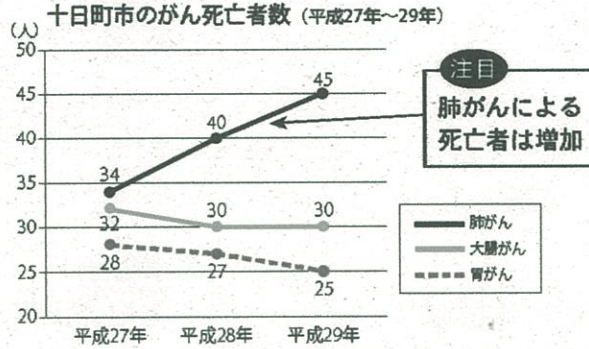


大切なあなたと家族のために受診しましょう

問合せ：健康づくり推進課成人保健係 ☎757-9764



医療法人社団山口医院（袋町中）
医師・院長 山口義文さん



症状がないからこそ、毎年がん検診を受けましょう

市民の死亡原因の第1位はがんです。中でも肺がん・大腸がん・胃がんで死亡する人が多い傾向です。しかし、がん検診の受診率は低い現状にあり、死亡する人の多くはがん検診を毎年受けていません。今回は、医師の山口義文さんの話を交えながら、肺がん検診の大切さをお伝えします。

早期発見のために

がん検診の目的は、症状が出る前にがんを見つけて早期の治療を行い、がんが亡くなる人を減少させることです。何よりも早期発見が大切です。

肺がんの特性

肺がんの多くは、初期は自覚症状に乏しく、胸部レントゲンに出現する影が唯一の発見の手がかりです。そのため、症状が出てから医療機関を受診したとき、既にがんが進行している恐れがあります。

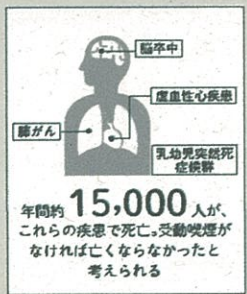
肺がん検診は毎年受診を

肺がん検診で撮影したレントゲンフィルムは、2人の医師が確認します。さらに、過去のフィルムと見比べる比較読影も行います。このため、毎年受診している人のほ

5月31日は世界禁煙デー 5月31日から6月6日は禁煙週間

—望まない受動喫煙をなくそう—

「受動喫煙」は望まない人をもたばこの煙にさらし、健康被害のリスクをもたらします。受動喫煙を受けなければ、年間15,000人がさまざまな疾患で死亡しなかったと推測されています。この機会に、禁煙にチャレンジしませんか。



詳しい情報はこちらへ
<https://jyudokitsuen.mhlw.go.jp>

なくそう！望まない受動喫煙



うが早期発見できる確率が高まり、死亡率を40〜60%減らすことができますという可能性も示されています。また、精密検査が必要と判断された人は、必ず医療機関を受診してください。精密検査を受けるまでが検診です。

禁煙は肺がん予防の柱

平成28年度に行なった市のアンケート調査では、男性は約27%、女性は約5%の人が喫煙していました。特に働き盛りの30〜50歳代男性の喫煙率が高い傾向です。がんによる死亡のうち、男性で34%、女

性で6%はたばこが原因だと考えられています。禁煙することは、がん予防のもう一つの柱です。

65歳以上の結核予防

65歳以上の人は結核の早期発見のためにも、年に1回は胸部レントゲン検査を受けましょう。特に80歳以上になると、ほかの年齢と比べて結核を発症する危険性が5倍高くなります。結核は早期に発見できれば、重症化を防ぐだけでなく、大切な家族や友人への感染を防ぐことにもなります。